

# 宿縁

二月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗  
本願寺派

## 中原寺

TEL 〇四七-三七二-〇二九二  
FAX 〇四七-三七二-〇二六一

### 仏の智慧に 導かれて生きる



言葉の一つ一つにはそれぞれの意味があり、心を動かす力があります。

常日頃、私たちが出会う言葉に「知識」・「知恵」・「智慧」などがありますが、似ているようでそれぞれが違う意味を持っていることを考えて見ましょう。

「知識」とは、物事を正確に判断する、見分けるといふことで、分別する力といっているのではないのでしょうか。私たちは生活を営むうえでこの知識は大切な役割を持っています。損とか得とか、多いとか少ないとか、

物事に対する善悪とかを知る。そのために教育は大事です。

しかし知識があるからといって人生を乗り越えられるというわけにはいきません。例えば1+1は2ですが決してそうではない場合もあります。現実には1+1は3の力にも4の力にもなることがあります。掛け算引き算を覚えていたとしても、それで割り切れないものは人生のいろいろな場面で遭遇することでありま。

知識があっても割り切れないのが人生そのものです。

そこから生まれてくる必要な世界が「知恵」というものです。知恵は見えなかった世界、気づかなかった世界に触れるという感覚の世界です。学校である子が理科の宿題を出されました。氷が解けたら「」となる。その「」に字を入れてきなさいというものです。正解は「水」です。しかしその子は「春」と書いて提出しました。寒い冬の毎朝、学校へ通う道すがら池にはいつも氷が張っていました。でもその日の朝は池の氷が割れているのを見ました。

「ああ、もう春なんだ！」

その子の答えは決して×とはいえないものがあります。それよりも◎をつけてあげたいくらいです。

「花を支える枝、枝を支える幹、幹を支える根、根っこは見えねんだなあ」

(相田みつを)

知識だけに頼らずものごとの深さを感じ取っていく知恵の世界は、人生生活に巾や潤いをもたせてくれます。

知識や力で勝ち取る人生ではなく、人間同士、自然との互恵的な関係を豊かに築くことができるのは、知恵を磨くところから生まれます。お互いに助け合い、相手を思いやる心を持ってば調和が生まれます。

ここまでは人間の肯ける世界です。分かるといえますか納得し努力できる世界です。つまり知識や知恵は人間の可能な世界だといえます。人知による人間形成、人間成就に欠かせないものです。

それではもう一つの「智慧」とはいかなる世界でしょうか。

仏教は人間成就の道を教えるにとどまらず、仏道すなわち仏に成る(さと)り＝真理に目覚める(の)を目標とします。ここがはつきりしないと仏道を歩むことになりません。

智慧は人間の世界ではなく仏の世界をあらわします。智慧という場合、それは仏のさと)りや仏のはたらきに属する言葉です。経典やお聖教に出てくるのはこの「智慧」の言葉です。

私たちが阿弥陀仏のお徳を表現する言葉に「智慧の光明」とか「智慧光仏」ともいいます。さと)りの内容を示すのが智慧という世界で、分別、対立を超えたところにすべては一如であるとする真理をいいます。それは「ある・なし」というとらわれから解放された世界です。私たちのものの見方は、「ある・なし」だけではなくて、敵味方、よしあし、好き嫌い、あるいは、損と得など二元対立の

立場です。阿弥陀さまの徳は人がが感じられめになつてこの二元対立のものの考え方から解き放つてくださるというのです。つまり仏さまの世界は垣根がないということですが。「大無量寿経」の中には「有無同然(うむどうねん)」という言葉があります。「ある」も「ない」も一緒という考え方です。これは何もかも一緒にすることとはまた違うので、「ある」ということも「ない」ということも同じことに帰着するということです。家のない者は家が欲しいと思う。ところが家をもつと、今度はそれを維持することに汲々として苦しみが絶えない。ある者はあることで苦しみ悩み、ない者はないことで苦しみ悩み、悩むという点では同じことだといわけです。人はあることにも悩み、ないことにも悩むのです。高い立場からみますと、あるもないも、とらわれたら一緒ということす。

仏の目覚め(真理)とは垣根のない世界です。すからすべては平等であり、万物が本来平等一如のありようをしていることを人々に知らしめる智慧のはたらきの世界です。だからそこから流れ出るのが仏の慈悲であり、私をしてその世界に生まれさせることがなければ、仏とは成らないと誓われているのです。その仏のいのちに触れるのは人として生きている今です。その教えに背ついた瞬間から仏のいのちを生きた私と転換されるのです。人間が作り出す煩惱や社会現象が嫌だから清らかな仏の世界に逃げるのではなく、絶えず煩惱と社会とを共にする仏のまなざしで生きる身なるところに人間の価値が見出されるのではないのでしょうか。

【寺灯雑記】

○引き続き「和讃に学ぶ」を学習

1/15

平成11年1月から開設された「親鸞セミナー」は毎月第4土曜日(原則)午後3時から5時まで開かれ、今年18年目に入りました。このセミナーは親鸞聖人の教えに関心をもち一般の人たちの参加もあって、各種法座の中でもユニークな集まりとなっています。

これまで「教行信証」、「歎異抄」、「唯信鈔文意」、「親鸞聖人のお手紙」、「仏説無量寿経」、等の聖典を前住職から学び、平成26年からは「和讃」に入っています。

この日も20数名が参加して、始めに高僧和讃(善導讃)6首を唱えてからその解説と味わいを学んで、ざっくばらんな質疑の時間を過ごしました。

どこからでも自由に参加できますのでお出かけください。

○新年度第1回の門信徒会役員会

1/21

初常例法座のあと、今年度第1回の定例門信徒会役員会が13名が出席して開かれました。

決議事項では昨年度の決算、今年度の予算案などが承認され、報告事項では宗門総合振興計画推進に係る当寺門信徒への依頼懇志額215万904円を門信徒会より進納したこと。聞法会館の外壁等修復工事の業者をトップ・プランナーに発注、請負額を993万6千円としたこと。また理事の今年度の役割分担等が示され承認されました。

○仏教壮年会が年次総会と新年会

1/28

新年度は役員改選があり、石井保会長が再選され副会長には村田太喜夫さん、山奥努さん、多田羅健二さん、新理事には盛田好一さんが新任、他の方々が再任されスタートしました。

主な活動としては、今年の例会では、法語カレンダーの心に響くことばから選んでご住職から法話をいただき、参加者で話し合いをすること。婦人会や他寺院との積極的交流を推進することなどが決議されました。

新年会では婦人会からの踊りや前住さんの落語を楽しんだあと、おでんや差し入れの美味しいお酒で賑わいました。

【ご案内】

☆宿縁廟並びに彼岸会法要修行

\*宿縁廟入廟者法要 「讃仏偈」

三月二十日(春分の日) 一時

新たに納骨される方、これまでに納骨

をされている方々の法要を廟前で営みます。十二時半までにご参詣ください。

\*春の彼岸会法要 「仏説阿弥陀経」

三月二十日(春分の日) 一時半

・講師：菅原伸郎氏(元新聞記者)

オウム真理教による地下鉄サリン事件

からちようど22年に当たります。当時朝日新聞記者として、カルト取材にかかわったことから、「釈尊そして親鸞聖人」

が「カルトと迷信」をどう否定されたか、というテーマでお話になります。どうぞお誘いあわせお出かけ下さい。

☆本願寺新門主の伝灯奉告法要参拝旅行

\*日程 五月十五日(月)〜十七日(水)

(二泊三日)

・参加費 七万九千円

・参加締切日 参加費を添えて二月末日までにお申し込み願います。

・旅程 京都本願寺法要参拝く福井東尋坊

く蓮如上人吉崎御坊く金沢別院く兼六園

(往復東海道、北陸新幹線を利用)

・宿泊地 御琴温泉、山代温泉

【法座・行事案内】

○常例法座 二月十八日(土) 一時

・講師：柏倉学法師(我孫子 真宗寺)

○いのちの居場所を考える会

二月二十三日(木) 十時半

・講師：清水博先生場の研究所所長

「場の思想」で著名な清水博士の提言を受けて、参加者で場の生きかたとは何かを考えます。

○和讃に学ぶ 二月二十五日(土) 三時

・講師：前住職 高僧和讃(善導讃)

○婦人会法座 三月四日(土) 一時

・講師：前住職 歎異抄後序

法座終了後、渡部喬子さん指導による誰でもできるヨガ教室が行われています。

【二月の掲示板のことば】

自分が弱いと感じるのは

一人で生きていこうとするからだ

【依頼について】

昨年九月に門信徒皆様へ文書でお願い致しました「中原寺本堂・聞法会館等修繕費積立金」を今年度から毎年度一律三千円としてご依頼申し上げます。

今日、いよいよ精神的支柱が求められていることから、お寺としての存在価値がきびしく問われてきています。

当寺と致しましても皆さまの期待と要望に伝えるため、開かれたお寺をめざして一層伝道教化に努めていかなければなりません。

そこで皆さまが安心して集える場所として本堂・会館等の維持にかかる修繕費を日頃から積み立てておく必要性が検討されてまいりました。

きびしい状況のもと、皆さまにご負担をおかけすること誠に申し訳ございませんが、何卒ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

尚、ご送金は同封の専用郵便振替用紙をご使用いただきますようお願い致します。

浄土真宗本願寺派中原寺

合掌

住職 平野俊斉

門徒総代表 錦織春海

門信徒会会長 河合功